

シリーズ記念碑探訪 20

県営岱山用排水 改良事業竣工記念碑

仁賀保町土地改良区

由

来

☆ 県営岱山地区かんがい排水事業 ☆

旧岱山堰は、鳥海山の支脈、幅山の裾を縫って施工され、仁賀保町の旧小出村、院内村、平沢町の概ね844haにかんがいされていた。この水路は土質がもろく、崩壊し易く、かつ老朽が目立ち年々被害を被り、その補修や改修に多額の費用を費やしていた。

たまたま昭和22年に大洪水で大きな被害を受け、以来、冷害、干ばつ、洪水に悩まされたため、抜本的対策の必要性を痛感し昭和27年5月小出、院内、平沢三ヶ町村の普通水利組合を、土地改良法に基づき仁賀保土地改良区に組織変更し、県や農林省の関係機関に陳情して、県営岱山地区かんがい排水事業の計画実施を強く要望した。

その結果、翌昭和28年から実施調査を開始し、昭和34年度に県営事業として採択され昭和35年度から、本格的な工事に着手するに至った。

岱山地区の主な工事内容は、旧新川堰の復活整備、温水路の設置、内川の改修、豆田川・下堰・琴浦線並びに旧幹線水路の整備改修、支線の整備などで、事業費が総額387,500千円で着工以来9ヶ年の工期をもって初期の計画通り完成した。

事業の完成を祝う竣工式典は、昭和44



岱山温水路



竣工記念碑

年11月16日、当時の小畑秋田県知事をはじめ国会議員、県会議員その他関係者多数出席のもとに、仁賀保体育館で盛大に行われた。

この事業の完成により、用水の適正な配分と用排水分離によって乾田化が図られ近代的農業経営の基盤が構築された。

また、岱山用水は安政年間に開削以来、この地域の農業用水を始め発電用水、生活用水及び防火用水など多目的の利用に供され、基幹的な水利施設としての役割を果たしてきた。

そして、これらの水管理については、当初白雪川普通水利組合の管理下におかれていたが、その後昭和27年に土地改良区へ管理委託されて、現在に至っている。

また、発電用水としての利用価値も高く、昭和7年水利組合設立以来、旧仁賀保電気組合、東北振興株式会社（現東北電力）との三者協定により、水路の共用について契約を締結した。これは、その後土地改良区、東北電力に引き継がれ、昭和46年6月に仁賀保町土地改良区と東北電力の間に「発電ならびに灌漑排水について互助共栄の趣旨による利水関係確立のための契約」が成立し、現在もこの契約書に基づいた運用がされている。

— 参考文献 —

・秋田県土地改良史